

Q・ごみ処理経費の2017年度から2018年度で一気に上がっているのは何故でしょうか。

A・2018年度に老朽化に伴う、粗大ごみ処理施設の機械設備を更新しました。その更新費用は、約6千万円です。

Q・ごみの資源化率が低いのに、なぜ目標値が下がっているのでしょうか。目標値を上げてそれに向けて努力する必要はありませんか。

・2029年度の「ごみ資源化目標値」が23.3%以上と、2019年度目標値より低くなった理由を知りたい。

A・「臼杵市総合計画(2015～2024)」(P32)の2019年度の目標値 25.8%に対して、2018年度の実績値は 23.0%(P39)となっており、臼杵市総合計画の目標値を下回る結果となっています。そのため、今回改訂の一般廃棄物処理基本計画は2018年度実績値を基に推計を行い、2029年度の目標値を 23.3%以上としました。今後は、市民・事業者・行政が連携した3R運動を推進し目標の達成に努めます。

Q・ごみの排出抑制について、臼杵市のごみの現状と問題点、世界的環境の視野に立った情勢の広報などを市民に向けて積極的に発信してほしい。

A・貴重な意見として承ります。今後はより一層、広報誌やごみ収集カレンダー等により市民の皆様へ向けた啓発を行っていきます。

Q・新環境センターについて、市民がまだよく知らずほとんど討議の議題にも挙がっていないのが現状ではないでしょうか。

A・新環境センターについては、建設予定地が決まったところであり、今後、広域6市で具体的な処理方式などを検討する予定であり、発信できることについては、市民の皆様へ広報誌等によりお知らせします。

Q・32ページの「1人当たりごみの排出量」の目標値が、国・県の単位と市の単位が異なっているのでわかりにくい。

A・臼杵市総合計画の単位が国・県の単位と違い分かりにくかったため、今回改訂の一般廃棄物処理基本計画は、国・県の単位に揃えて作成しました。

Q・「講習会」開催までの手順を明確化すべき。

A・特に手順は定めていません。講習会が必要な場合は、環境課または清掃センターへ連絡をしていただければ、日程や内容等の打ち合わせを行い開催する流れとなります。

Q・「人材の育成」における「人材」について、だれがどのような形で育成するのか、どのような資格・権限を有するのかなど具体的に示してほしい。

A・今後、具体的な方策について検討を行います。

Q・「廃油ローソク」を作っている団体が市内に存在しているのか知りたい。

・廃油ローソクについて使用してくださる方はどこにいられるのでしょうか。今はどれだけ製品されている所があるのでしょうか。

・廃食用油のエネルギー利用方法について、調査・検討されている現状を教えてください。

A・まず、49ページの施策15の表題が「高齢者等に配慮した収集サービスの検討」となっていますが、「廃食用油の利活用の推進」の誤植でしたので、修正しました。

質問の回答ですが、廃食用油から石鹼や廃油ローソクなどを作る場合には支援を行うという記載については、廃食用油の使用例として掲げています。なお、現在のところ、市内で「廃油ローソク」を作っている団体はありません。

また、廃食用油のエネルギー利用方法については、臼杵市バイオマス産業都市構想において調査・検討を行っています。

Q・高齢者に配慮した収集について区等に説明、チラシ等で広報されているのでしょうか。

A・現在、広報は行っていませんが、区からの個別の相談は随時お受けしています。

Q・プラのキャップを収集してくださる業者はどこでしょうか。最終は何に変わるのでしょうか。

A・プラスチックのキャップは、市が委託している収集業者がプラスチックごみとして収集しています。キャップの処理については、臼杵市は容器包装リサイクル協会と契約を結んでおり、協会が指定した業者に出荷し、リサイクルしています。

Q・臼杵川水系及び末広川水系の「大腸菌群数」基準値超の原因分析と対策はどうなっていますか。

A・大腸菌群数とは、人や動物の糞便中に存在する大腸菌も含まれていますが、糞便に関係なく、植物や土壌、水など自然界に広く存在している糞便ではない菌も含んでおり、一概に人の健康を妨げるものではないとされています。

大腸菌群数が基準値を超えている原因としては、自然界に起因するものが大きいと思いますが、一般家庭の台所やお風呂などの生活雑排水も原因の一つと考えております。このようなことから、生活排水処理施設が果たす役割やその効果をさらに市民の皆様へ啓発するとともに、公共下水道や集落排水処理施設への接続、また、単独処理浄化槽やし尿の汲み取り世帯の合併処理浄化槽への切り替えと適正な維持管理を推進していきます。